

LHC-ATLAS実験における 多変量解析によるZ粒子τレプトン対崩壊の研究

日本物理学会第67回年次大会@関西学院大学 27pFA-5 2012 Mar 27th Tue. 14:30(JST) -



LHC-ATLAS



Higgs & Leptonic au ID



ATLASではカットベースの $H \rightarrow \tau \tau \rightarrow \ell \ell \ell$ が評価されており、多変量解析 (MVA)を用いた方法も検討されているが τ のlifetime情報は使われていない。lifetime情報を入れた多変量解析でS/B向上を目指す。

Transverse impact parameter d_0

4



Analysis Flow

- 1. 2011 full dataset (4.66 fb-1)
- 2. $N_e = N_\mu = 1$
- 3. MVA分類器のトレーニング(6つのBGを仮定) 次ページに示す E_T^{miss} , $m_{e\mu}$ など様々なKinematic variablesを使用
- 4. Isolation requirements
- 5. $Q_{\mu} \times Q_e = -1$
- 6. MVAの出力値を全イベントに持たせる
- 7. MVA出力値によるセレクション
- MVAに d_0 を用いる前後での結果を比較

分類器はMLP、TMLP、BDTを比較検討中

MLPと入力変数

6



MLP 出力值





Number of events	Before MVA	MLP w/o d0	MLP w/ d0
MC Ztautau expectation	11218	9729	9836
MC other BG expectation*	11846	768	732
S/B	0.946	12.7	13.4

*QCD BGの評価は含まない

 d_0 によりS/Bは約6%向上した

Summary

Conclusion

- d_0 を用いた多変量解析を新たに導入し $Z \rightarrow \tau_e \tau_\mu$ と 背景事象の分離を評価した
 - d₀を組み込まない場合よりS/Bが約6%向上し、また期
 待できる背景事象分離能力が得られた(QCDは未評価)。

<u>Plan</u>

- Dataを用い、QCDから来るBG Expectationを進行中
- 本解析をHiggs粒子探索に適用
 Higgs MCをsignalとしてトレーニング→カット解析との比較
- 最終判別を最適化
- ・過訓練など、解析条件の最適化

ありがとうございました

BACKUP SLIDES

MVA input variables distribution

